

福祉サービス第三者評価結果報告書(平成 28 年度)

年 月

東京都福祉サービス評価推進機構

公益財団法人東京都福祉保健財団理事長殿

〒 171-0014

所在地 豊島区池袋 2-23-23 白鳥ハイツ 102 号

評価機関名 特定非営利活動法人福祉推進機構アシスト

機構 07 -

認証評価機関番号 03-6906-5231

177

電話番号 理事長 島田久平

代表者氏名

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	島田久平	経営	H0702042
	②	小川登美子	福祉	H1202009
	③	竹村恵子	福祉	H0701032
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	福祉型障害児入所施設(旧知的障害児施設)			
評価対象事業所名称	友愛学園児童部		指定番号	
事業所連絡先	-T	198-0001		
	所在地	東京都青梅市成木 2-107		
	・	0428-74-5453		
事業所代表者氏名	施設長内山敏			
契約日	2016 年 6 月 30 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2016 年 9 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2016 年 11 月 22 日			
自己評価の調査票配付日	2016 年 8 月 23 日			
自己評価結果報告日	2016 年 11 月 22 日			
訪問調査日	2016 年 11 月 28 日			
評価合議日	2017 年 1 月 14 日			
コメント(利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	職員説明会では評価制度の趣旨や評価方法について丁寧に説明した。利用者調査にあたっては施設と事前に十分協議し、利用者の意向がより把握できるよう工夫した。保護者アンケートは、施設からアンケート票を配付してもらい、回答は評価機関が用意した返信用封筒で評価機関に直送してもらった。場面観察は評価者 2 人で行った。訪問調査は評価者 3 人で行い、施設長、副施設長と面接し、実施状況について説明を受け意見交換を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、別紙(表)機構が定める部分を公表することに同意します。

別添の理由書により、一郎について、公表に同意しません。

別添の理由書により、公表には同意しません。

別添

年

月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p>理念・方針（関連カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え(事業者の理念・ビジョン・使命など)のうち、特に重要なもの(上位5つ程度)を簡潔に記述(関連カテゴリー1 リーダーシップと意思決定)</p> <p>●経営の基本理念 わたしたちは、子どもから大人まで、障害のある人が安心して暮らせ、希望に満ちた生活下出来るように、愛と信頼と行動で支援します。●基本方針 (1)子どもたちの最善の利益を考える(利益擁護) (2)子どもたちの健やかな成長を支える(信頼感・安心感・満足感) (3)日々の観察から肯定的な子ども像を捉える(正しい特性理解・潜在能力の助長) (4)保護者を共同の援助者と考える(学び合う意識) (5)子ども達が望む自立的な大人の生活実現を支える(社会への移行支援)</p>
2	<p>期待する職員像（関連カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>・誠実であること。主体性を持って考え、判断し、行動し、学ぼうという姿勢の人材。組織の一員として最低限の報・達・相ができ、周囲の意見を傾聴し、独善的な言動に走らず謙虚に組織の中で能力を表出できる人材。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>・国民の税金により仕事をしている以上社会に向けて自分の仕事の説明責任が伴うこと、生命を預かっていることの重さを常に意識してほしい。そして正しい倫理観の下、支援を必要としている人とその家族に寄り添い支えてい<気概を持ち続けてほしい。</p>

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	18歳での退所後を見据え、早い段階から関係機関と連携し目標実現に取り組んでいる
	内容	個別支援計画のアセスメントで、将来の生活ビジョンとして子どもと保護者に、生活スタイルと暮らしの場所についての意向を把握している。さらに「想い・意思・希望」に応じて親子それぞれの目標に向けた支援を行い、見直しを図っている。親子の目標が異なる場合は、主治医・学校・児童相談所・援護実施機関等と連携し、助言を受けながら調整を行っている。今年度の家族懇談会では「おとなの生活への移行」をテーマに設定し、退所後の選択肢についての共通基盤となる情報提供に努め、話し合いの内容がより身近なものになるよう支援に取り組んでいる。
2	タイトル	個別支援計画にそった支援の実践を確認し、日々の支援の提供状況をチェックして児童への支援の精度を高める仕組みができています。
	内容	施設では、ケアマネジメントの一連の流れがきちんとシステム化されている。前提に、施設を必要とする児童の特性、多様化に対応し成長を支え、通過施設として次へのライフステージに引き継ぐ役割を果たそうとしている。アセスメントで状況把握、満足度や見直しの要否をモニタリングで評価し、再アセスメントに繋ぎプランを作成、プランに沿って実施がされているかはプランの具体的なサービスのチェック表をつくり、生活記録に記している。さらに、生活全体の様子を支援まとめとして作成し、支援の精度を高める取り組みをしている。
3	タイトル	子どもの権利条約を踏まえた職員行動規範を作成し、児童が自分の考えを発信できるよう環境を整える工夫・配慮に取り組んでいる
	内容	職員行動指針のもと倫理の徹底に取り組んでいる。指針では、倫理綱領、具体的行動規範を定めている。倫理綱領では、子どもの権利条約を踏まえて、生命の尊厳、人権の擁護、個性・主体性の尊重等を定めている。行動規範では人権の尊重、児童が中心の支援、社会参加の支援など具体的に職員の行動を示している。この実践に向けて、権利擁護委員会活動を充実させている。児童と職員の関わり方のアンケートを行う一方、第三者委員と児童の懇談会を実施し、支援に生かしている。また、利用者の会の充実など児童が自分の考えを発信できる環境を整えている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	長年蓄積してきた支援技術の継承を図り、支援力のさらなる標準化を期待したい
	内容	障害児入所施設として昭和32年に開設されて以来、職員行動指針や職務帯別分掌、緊急マニュアルなど実務に即したきめ細かな手引書を整備し、課題である重度児童等への支援力の充実に取り組んでいる。この基準書や手順書、マニュアルは一冊にファイル化され各部署に設置している。一方、施設ではここ数年、経験年数2、3年の職員比率が増えており、手引書などが十分活用されず簡易ミスなどの課題も出ている。蓄積されてきた支援技術力の確実な継承及び支援力の標準化に向けて、手引書の読み合わせなど更なる対応を期待したい。
2	タイトル	重度障害児童の入所増および地域移行への支援力が必至、専門的なチャレンジ、技術、擁護実施機関連携等、次を担う職員育成に期待している
	内容	重度障害児童の入所比率が高まる傾向にあり、望ましい大人の生活の場への移行に関わる計画は、さらに、早い段階から保護者、学校、児童相談所、援護実施機関等との連携が必要となっている。施設では、非常勤職員を含め、勤務経験の浅い職員が多岐職員の支援力の底上げや次世代の人材育成にむけて、職員の特長やキャリアアップの視点から施設独自に実務責任者を指名し、主体的に判断・実行できるような試みや全職員を対象に施設内外の研修も実施している。さらに、法人や援護実施機関連携のネットワークを活かした研修等に期待をしている。
3	タイトル	快適な生活環境づくりに向けて、計画的に継続して環境整備に取り組むことを期待したい
	内容	園舎は築後25年で、老朽化への対応が重要な課題となっている。中長期的には改築計を視野に入れつつ、当面の対応策として継続的に施設・設備の改修などに取り組んでいる。今まで生活棟内壁面の塗装美化、居室内ベットの買い替え、オゾン脱臭装置の導入などを行ってきた。昨年度はわかば棟のトイレブース扉の修理、今年度はデイルームエアコンの新調、わかばデイルームの脱施設化を行っている。施設では、今後も継続して環境整備が不可欠と認識している。利用者の安心・安全と快適な生活環境に向けて、優先課題の視点で計画的な整備を期待したい。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	2-1-2	第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている
タイトル①	透明性の高い施設づくりを積極的に推進している	
内容①	<p>ホームページ(HP)や広報誌等で積極的に情報開示している。HPでは、事業所情報の他、事業計画書や報告書、決算状況等の他、第三者評価結果も公表している。法人広報誌「友愛」を年3回発行し、地元自治会や学校、児相等に配付している。誌面には事業報告、財務状況、事業計画、人事情報、各事業所の活動状況を載せるなど透明性が高い。広報誌はHPでも閲覧出来る。一方、保護者懇談会では、第三者評価結果報告、事故ヒヤリハット・苦情報告を行っている。また、盆踊り、学園祭、音の輪の行事には地域に呼びかけ、地元住民が多数参加している。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	子ども一人ひとりの状況に応じて、自立に向けた生活上の支援を行っている
タイトル②	児童の意見の取り込みやモチベーションアップにつながる取り組みをしている	
内容②	<p>中軽度児童を中心に自分たちの生活のルール作りや生活を振り返る利用者会議が実施されている。司会進行も児童が行い、職員はサポートをしている。将来、グループホーム等に移行後、地域で自立した生活に向けて自己管理ができることを目指している。帰宅後の自分の洗濯物の整理や過ごし方等がデイルームにルールとして貼られている。会議は長期休みの前には必ず実施され、休み期間の過ごし方が児童自身で決められている。また、行事の出し物や演目等も会議で決定されており、児童は会議をととして施設運営に自主的に関わっている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	子どもの主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている
タイトル③	子どもたちがのびのびと自分らしく生活し、活動を楽しめるように支援をしている	
内容③	<p>山や川のある自然環境を生かして野外活動を盛んに行い、児童は多彩な遊びの面白さを体験している。また、芸術家ボランティアからの呼びかけに応じて集団パフォーマンスの「芸術家と子どもたちの」活動により、音楽と融合した体を使った表現活動に20名が参加した。レッスンを継続して、それぞれの個性が引き出され、豊かな表現力を発表会で見せている。保護者懇談会ではバーベキューを一緒に楽しみ、成人部との合同行事に参加して自分の居場所を持ち、今年は児童が企画したイベントの「ミニ四駆・わかばカップ」が大盛況であった。</p>	